

Alibaba Cloud **云数据# RDS**

RDS MySQL ユーザーガイド

Document Version20200331

目次

1 クイックスタート	1
1.1 RDS を使用する手順の概要	1
1.2 ホワイトリストの設定	1
1.3 ApsaraDB RDS MySQL インスタンスのデータベースとアカウントの作成	5
1.4 インスタンスへの接続	14
1.5 インスタンスのスケール	17
2 インスタンスパラメーター	18
2.1 RDS for MySQL インスタンスのパラメーター再設定	18
2.2 パラメーターテンプレートの操作	23
3 データベースバックアップ	31
3.1 リージョン間でデータをバックアップする	31
4 復元	37
4.1 リージョン間で RDS for MySQL インスタンスのデータを復元する	37
5 読み取り専用インスタンス	40
5.1 読み取り専用インスタンスの作成	40

1 クイックスタート

1.1 RDS を使用する手順の概要

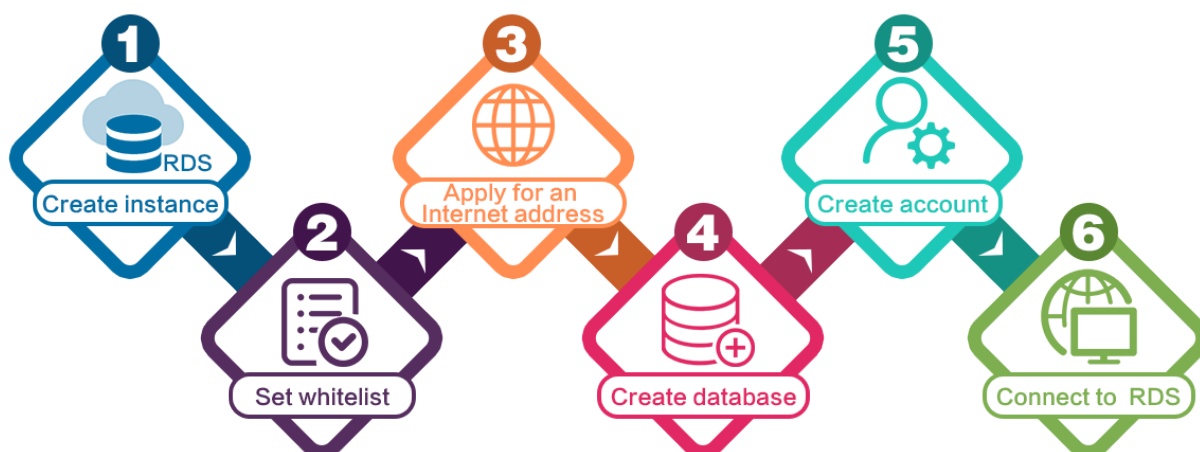
クイックスタートの目的

このドキュメントでは、RDS インスタンスの購入から使用までの手順について説明します。また、ApsaraDB for RDS インスタンスの作成方法、基本設定の実行方法、およびインスタンスデータベースへの接続方法についても詳しく説明します。

クイックスタートフローチャート

Alibaba Cloud ApsaraDB for RDS を初めて使用する場合は、「[#unique_3](#)」をご参照ください。

次の図は、インスタンスの作成から使用までの手順を説明しています。



1.2 ホワイトリストの設定

データベースのセキュリティと安定性を確保するために、RDS インスタンスの使用を開始する前に、データベースにアクセスする必要がある IP アドレスまたは IP アドレスセグメントをホワイトリストに登録する必要があります。RDS のセキュリティを維持するために、定期的にホワイトリストを確認して要件に従って調整することを推奨します。本ドキュメントでは、ホワイトリストの設定方法と設定手順について説明します。

背景情報

イントラネット、インターネット、またはイントラネットとインターネットの両方を介して **RDS** インスタンスにアクセスできます。各接続タイプ (イントラネットとインターネット) に該当するシナリオの詳細については、「[#unique_5](#)」の背景情報をご参照ください。

接続タイプを設定する前に、アプリケーションサービスまたは **ECS** インスタンスの **IP** アドレスまたは **IP** アドレスセグメントを **RDS** インスタンスのホワイトリストに追加する必要があります。ホワイトリストが設定されると、**RDS** インスタンスのイントラネット **IP** アドレスが自動的に生成されます。インターネットの **IP** アドレスが必要な場合は、「[#unique_6](#)」をご参照ください。



注:

ホワイトリストにアプリケーションサービスの **IP** アドレスを追加した後に **RDS** インスタンスに接続できない場合は、「[「*ApsaraDB for MySQL* を使ったローカル IP アドレスの確認方法](#)」」をご参照して、アプリケーションサービスの現行の **IP** アドレスを取得します。

注意事項

- ・ **RDS** インスタンスが新しく作成されるとデフォルトのホワイトリストグループが自動的に作成されます。このデフォルトのホワイトリストグループは変更またはクリアのみ可能で、削除することはできません。
- ・ 新しく作成された **RDS** インスタンスには、ローカルループバック **IP** アドレス **127.0.0.1** がデフォルトで、**default** ホワイトリストグループ追加されます。これは、全ての **IP** アドレスまたは **IP** アドレスセグメントが、この **RDS** インスタンスにアクセスすることが禁止されていることを意味します。したがって、ホワイトリストに他の **IP** アドレスまたは **IP** アドレスセグメントを追加する前に、デフォルトのホワイトリストグループから **127.0.0.1** を削除する必要があります。
- ・ % または **0.0.0.0/0** は、任意の **IP** アドレスが **RDS** インスタンスにアクセスできることを示します。この設定はデータベースのセキュリティを大幅に低下させるため、推奨しません。

手順

1. [RDS コンソール](#) にログインします。
2. 対象インスタンスのリージョンを選択します。
3. 対象インスタンスの名前をクリックし、基本情報ページに移動します。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[セキュリティコントロール]** をクリックします。セキュリティコントロールページにアクセスします。

5. 次の図のように、ホワイトリスト設定タブページで、デフォルトホワイトリストグループの [変更] をクリックします。



注：

カスタマイズしたホワイトリストグループを **RDS** インスタンスに追加する場合は、デフォルトのホワイトリストグループの [クリア] をクリックして **IP アドレス 127.0.0.1** を最初に削除してから、[ホワイトリストグループを追加] をクリックします。カスタマイズされたホワイトリストの設定手順は、次の手順と同じです。



6. グループの変更ページで、**RDS** インスタンスへのアクセスが許可されている **IP アドレス** または **IP アドレスセグメント** をホワイトリストフィールドに追加します。**ECS** イン트라ネットの **IP アドレス** を追加する場合は、[ECS イン트라ネットの IP アドレスをアップロード] をクリックします。次の図に示すように、プロンプトに従って **IP アドレス** をクリックします。



注：

新しい IP アドレスまたは IP アドレスセグメントをデフォルトグループに追加すると、ルーブバックアドレス **127.0.0.1** が自動的に削除されます。

Modify Group

Network Isolation Mode: VPC Classic Network/Public IP

Group Name*: default

Whitelist*: 127.0.0.1

[Upload ECS Intranet IP Address](#) You can add 999 whitelists more

Specified IP address: Add an IP address to allow this IP to access RDS.
Specified IP segment: Add an IP segment to allow all the IP addresses in this segment to access RDS.
When you add multiple IP addresses, separate them by a comma (no space after the comma), such as "192.168.0.1,192.168.0.1/24".
[How to locate the local IP address](#)

The whitelist takes effect in 1 minute.

OK Cancel

パラメーターの説明

- ・ **グループ名:** 2～32文字で、小文字、数字、またはアンダースコア (_) をを含めることができます。グループ名は、小文字で始まり、文字または数字で終わる必要があります。ホワイトリストグループが正常に作成されると、この名前を変更できなくなります。
- ・ **ホワイトリスト:** RDS インスタンスへのアクセスが許可されているカスタマイズされた IP アドレスまたは IP アドレスセグメントを入力します。

- **10.10.10.0/24** のように IP アドレスセグメントを入力した場合は、**10.10.10.x** という形式の IP アドレスが RDS インスタンスにアクセスできることを示します。
- 複数の IP アドレスまたは IP アドレスセグメントを入力する場合は、"**192.168.0.1, 172.16.213.9**" のように、カンマ (,) で区切ります (スペースを入れしないでください)。
- ホワイトリストグループごとに、最大 **1000** 個の IP アドレスまたは IP アドレスセグメントを MySQL、PostgreSQL、および PPAS インスタンスに設定でき、最大 **800** 個を SQL Server インスタンスに設定できます。
- ・ **ECS** イントラネットの IP アドレスをアップロード: このボタンをクリックして、RDS インスタンスと同じアカウントにある ECS インスタンスのイントラネット IP アドレスを選択できます。これは、ECS イントラネットの IP アドレスを追加する簡単な方法です。

7. [OK] をクリックします。

ホワイトリストグループの変更または削除

ビジネス要件に応じて、ホワイトリストグループの修正または削除ができます。詳しい手順は次のとおりです。

1. [RDS コンソール](#) にログインします。
2. 対象インスタンスのリージョンを選択します。
3. 対象インスタンスの名前をクリックして、基本情報ページに移動します。
4. 左側のナビゲーションウィンドウでセキュリティをクリックします。
5. ホワイトリスト設定のタブページで、対象のホワイトリストグループの [変更] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。
6. IP アドレスまたは IP アドレスセグメントを変更した後に [OK] をクリックします。または、削除されるホワイトリストグループを確認できたら、[確認] をクリックします。

1.3 ApsaraDB RDS MySQL インスタンスのデータベースとアカウントの作成

このトピックでは、ApsaraDB RDS MySQL インスタンスのデータベースとアカウントを作成する方法について説明します。

他のデータベースエンジンでデータベースとアカウントを作成する方法については、次のトピックをご参照ください。

- ・ [#unique_8](#)
- ・ [#unique_9](#)
- ・ [PostgreSQL インスタンスのデータベースとアカウントの作成](#)

- ・ [RDS PPAS インスタンスのデータベースとアカウントの作成](#)
- ・ [RDS for MariaDB インスタンスのアカウントとデータベースの作成](#)

アカウントタイプ

ApsaraDB RDS MySQL は、特権アカウントと標準アカウントの 2 種類のアカウントをサポートしています。すべてのアカウントとデータベースは **ApsaraDB for RDS** コンソールで管理できます。各アカウントタイプに付与できる権限の詳細については、「[アカウント権限](#)」をご参照ください。

アカウントタイプ	説明
特権アカウント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特権アカウントは、ApsaraDB for RDS コンソールまたは API を介してのみ、作成と管理が可能です。 ・ RDS インスタンスに作成できる特権アカウントは 1 つだけです。この特権アカウントには、RDS インスタンスのすべての標準アカウントとデータベースを管理する権限があります。 ・ RDS インスタンスの特権アカウントを使用して、ビジネスニーズに適したきめの細かい権限管理を行うことができます。たとえば、特定のテーブルをクエリする権限を各標準アカウントに付与できます。 ・ 特権アカウントを使用して、RDS インスタンスの許可済みデータベースからアカウントを切断できます。
標準アカウント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準アカウントは、ApsaraDB for RDS コンソール、API、SQL 文 を介して、作成と管理が可能です。 ・ RDS インスタンスには最大 200 の標準アカウントを作成できます。 ・ 標準アカウントごとにデータベースの管理権限を手動で付与する必要があります。 ・ 標準アカウントを使用して RDS インスタンス内の他のアカウントを作成または管理することはできません。また、標準アカウントを使用して、許可済みデータベースから他のアカウントを切断することもできません。

アカウントタイプ	データベース数	テーブル数	ユーザー数
特権アカウント	無制限	< 200,000	カーネルパラメーターの設定によって異なります。
標準アカウント	500	< 200,000	カーネルパラメーターの設定によって異なります。

特権アカウントとスーパーユーザーアカウントの比較

ビジネスに対する誤操作の影響を軽減するため、ApsaraDB RDS MySQL はスーパーユーザーアカウントを提供していません。特権アカウントは、RDS インスタンスの標準アカウントとデータベースを管理するためにのみ使用できます。

特権アカウント

- ・ 詳細については、「[アカウント権限](#)」をご参照ください。
- ・ 特権アカウントには、すべての標準アカウントを切断する権限があります。

スーパーユーザーアカウント

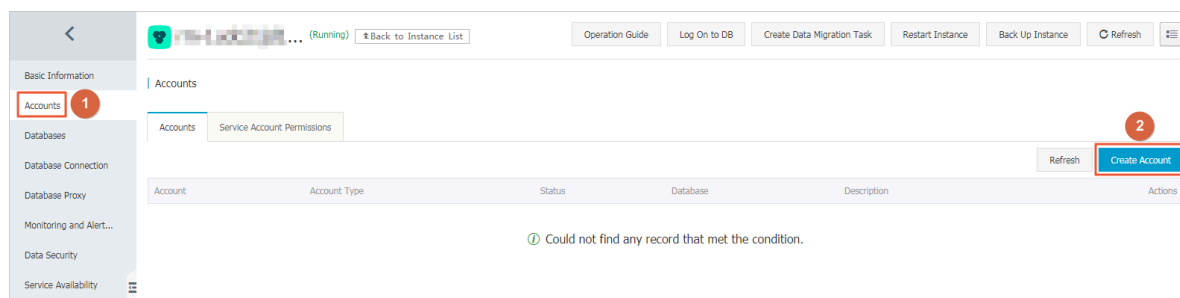
- ・ すべてのクエリ接続を切断する権限があります。
- ・ SET 文を実行してグローバル変数を変更する権限があります。
- ・ CHANGE MASTER 文と PURGE MASTER LOGS 文を実行する権限があります。
- ・ RDS インスタンスが存在するホストのファイルを編集する権限があります。

特権アカウントの作成

1. [ApsaraDB for RDS コンソール](#)にログインします。
2. 画面の左上で、ターゲットの RDS インスタンスが配置されているリージョンを選択します。



3. ターゲットの RDS インスタンスを見つけ、ID をクリックします。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、[アカウント管理] をクリックします。
5. [アカウント管理] タブで、[アカウントの作成] をクリックします。



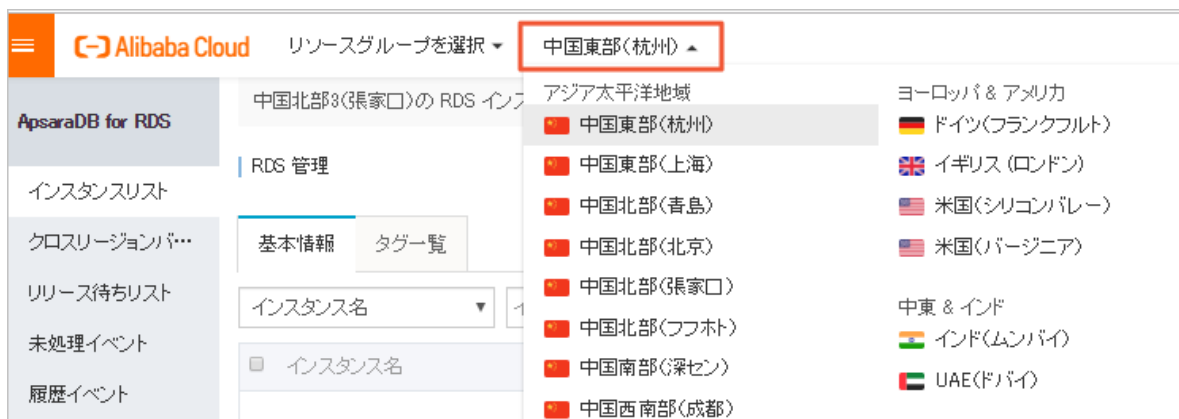
6. 以下のパラメーターを設定します。

項目	説明
データベースアカウント	特権アカウントのユーザー名を入力します。ユーザー名が次の要件を満たしていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名は2~16文字です。 ・先頭は英字、末尾は英字か数字にする必要があります。 ・小文字、数字、アンダースコア (_) を使用できます。
アカウントタイプ	[特権アカウント] を選択します。
パスワード	特権アカウントのパスワードを入力します。パスワードが次の要件を満たしていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・パスワードは8~32文字です。 ・パスワードには、大文字、小文字、数字、特殊文字の中から少なくとも3種類の文字を使用する必要があります。 ・特殊文字： @ # \$ % ^ & * () _ + - = を使用できます。
パスワードの確認	特権アカウントのパスワードをもう一度入力します。
説明	特権アカウントの識別情報を入力します。説明は256文字まで入力できます。

7. [作成] をクリックします。

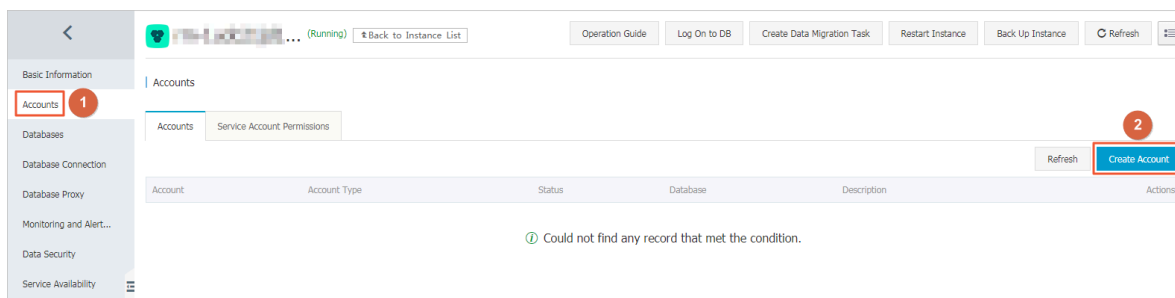
標準アカウントの作成

1. [ApsaraDB for RDS コンソール](#) にログインします。
2. 画面の左上で、ターゲットの **RDS** インスタンスが配置されているリージョンを選択します。




3. ターゲットの **RDS** インスタンスを見つけ、**ID** をクリックします。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、[アカウント管理] をクリックします。

5. [アカウントの作成] をクリックします。



6. 以下のパラメーターを設定します。

項目	説明
データベース アカウント	<p>標準アカウントのユーザー名を入力します。ユーザー名が次の要件を満たしていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名は 2~16 文字です。 先頭は英字、末尾は英字か数字にする必要があります。 小文字、数字、アンダースコア (<code>_</code>) を使用できます。
アカウントタイプ	<p>[標準アカウント] を選択します。</p>
許可済みデータベース	<p>標準アカウントに許可するデータベースを選択します。このパラメーターを指定せずに、標準アカウントの作成後にデータベース権限を付与することもできます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 未許可のデータベースリストからデータベースを選択し、[追加] をクリックして許可済みデータベースリストに追加します。 許可済みデータベースリストで、[読み取り/書き込み][読み取り専用] を選択し、許可済みデータベースごとに [DDL のみ] または [DML のみ] 権限を選択します。 <p>同じ許可を複数の許可済みデータベースに同時に指定する場合は、許可済みデータベースを選択して、右上隅のボタンをクリックします。たとえば、[すべて読み取り/書き込みに設定] をクリックします。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 注： クリックすると、画面右上のボタンが変わります。たとえば、[すべて読み取り専用に設定] をクリックすると、ボタンは [すべて読み取り/書き込みに設定] に変わります。</p> </div>

項目	説明
パスワード	標準アカウントのパスワードを入力します。パスワードが次の要件を満たしていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> パスワードは 8~32 文字です。 パスワードには、大文字、小文字、数字、特殊文字の中から少なくとも 3 種類の文字を使用する必要があります。 特殊文字：@ # \$ % ^ & * () _ + - = を使用できます。
パスワードの確認	標準アカウントのパスワードをもう一度入力します。
説明	オプション。標準アカウントの識別情報を入力します。説明は 256 文字まで入力できます。

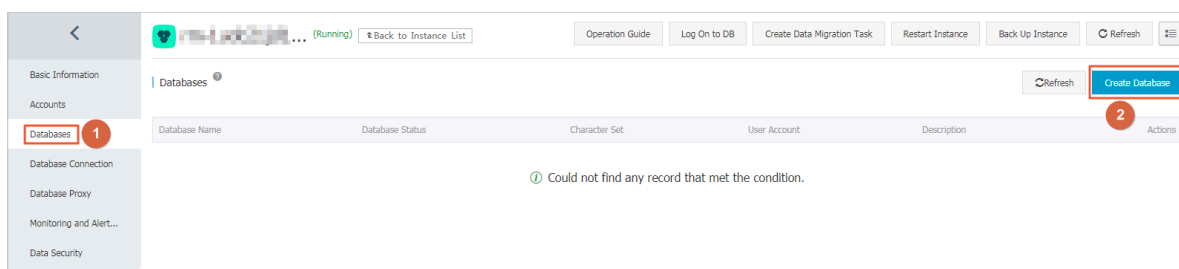
7. [作成] をクリックします。

データベースの作成


1. [ApsaraDB for RDS コンソール](#) にログインします。
2. 画面の左上で、ターゲットの **RDS** インスタンスが配置されているリージョンを選択します。



3. ターゲットの **RDS** インスタンスを見つけ、**ID** をクリックします。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[データベース]** をクリックします。
5. **[データベースの作成]** をクリックします。



6. 以下のパラメーターを設定します。

項目	説明
データベース名	<ul style="list-style-type: none"> データベース名は 2～64 文字でです。 先頭は英字、末尾は英字か数字にする必要があります。 小文字、数字、アンダースコア (_)、ハイフン (-) を使用できます。 データベース名は RDS インスタンス内で一意でなければなりません。
対応文字セット	utf8 、 gbk 、 latin1 、または utf8mb4 を選択します。 utf8 、 gbk 、 latin1 、 utf8mb4 を使用しない場合は、[すべて] を選択し、[すべて] のドロップダウンリストから文字セットを選択します。
承認済みアカウント	<p>データベースへのアクセスを必要とするアカウントを選択します。このパラメーターを指定せずに、データベースの作成後にアカウントをバインドすることもできます。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">  注： [標準アカウント] のみが表示されます。特権アカウントには、すべてのデータベースに対する全権限があります。作成するデータベースのアクセス権限を特権アカウントに許可する必要はありません。 </div>
アカウントタイプ	選択したアカウントに付与する権限を選択します。[読み取り/書き込み]、[読み取り専用]、[DDL のみ]、[DML のみ] を選択できます。
説明	オプション。データベースの識別情報を入力します。説明は 256 文字まで入力できます。

7. [作成] をクリックします。

アカウント権限

アカウントタイプ	権限	操作				
特権アカウント	N/A	SELECT	INSERT	UPDATE	DELETE	CREATE
		DROP	RELOAD	PROCESS	REFERENCES	INDEX
		ALTER	CREATE TEMPORARY TABLES	LOCK TABLES	EXECUTE	REPLICATION SLAVE
		REPLICATION CLIENT	CREATE VIEW	SHOW VIEW	CREATE ROUTINE	ALTER ROUTINE
		CREATE USER	EVENT	TRIGGER		
標準アカウント	読み取り専用	SELECT	LOCK TABLES	SHOW VIEW	PROCESS	REPLICATION SLAVE
		REPLICATION CLIENT				
	読み取り/書き込み	SELECT	INSERT	UPDATE	DELETE	CREATE
		DROP	REFERENCES	INDEX	ALTER	CREATE TEMPORARY TABLES
		LOCK TABLES	EXECUTE	CREATE VIEW	SHOW VIEW	CREATE ROUTINE
		ALTER ROUTINE	EVENT	TRIGGER	PROCESS	REPLICATION SLAVE
		REPLICATION CLIENT				
	DDLのみ	CREATE	DROP	INDEX	ALTER	CREATE TEMPORARY TABLES

アカウントタイプ	権限	操作				
		LOCK TABLES	CREATE VIEW	SHOW VIEW	CREATE ROUTINE	ALTER ROUTINE
		PROCESS	REPLICATION SLAVE	REPLICATION CLIENT		
	DML のみ	SELECT	INSERT	UPDATE	DELETE	CREATE TEMPORARY TABLES
		LOCK TABLES	EXECUTE	SHOW VIEW	EVENT	TRIGGER
		PROCESS	REPLICATION SLAVE	REPLICATION CLIENT		

よくある質問

- ・ 読み取り専用インスタンスでアカウントを管理できますか。

プライマリインスタンスで作成されたすべてのアカウントは、読み取り専用インスタンスに複製されます。ただし、読み取り専用インスタンスではアカウントを管理できません。アカウントには、読み取り専用インスタンスからデータを読み取る権限のみがあります。

- ・ IP アドレスレベルやテーブルレベルなど、細かいレベルでアカウントを管理できますか。

管理するアカウントの RDS インスタンスに接続します。次に、コマンドを使用して、特定の IP アドレスやテーブルを管理する権限をアカウントに付与します。詳細については、「[RDS for MySQL インスタンスの作成](#)」をご参照ください。

- ・ ApsaraDB for RDS には root ユーザーまたはその他のスーパーユーザーアカウントがありますか。

ビジネスに対する誤操作の影響を回避するため、ApsaraDB for RDS は root ユーザーやその他のスーパーユーザーアカウントを提供していません。

関連する操作

操作	説明
#unique_14	ApsaraDB for RDS インスタンスのアカウントを作成します。
#unique_15	ApsaraDB for RDS インスタンスのデータベースを作成します。

1.4 インスタンスへの接続

初期設定が完了したら、ECS インスタンスまたはデータベースクライアントを使用して **ApsaraDB RDS for MySQL** に接続できます。

背景情報

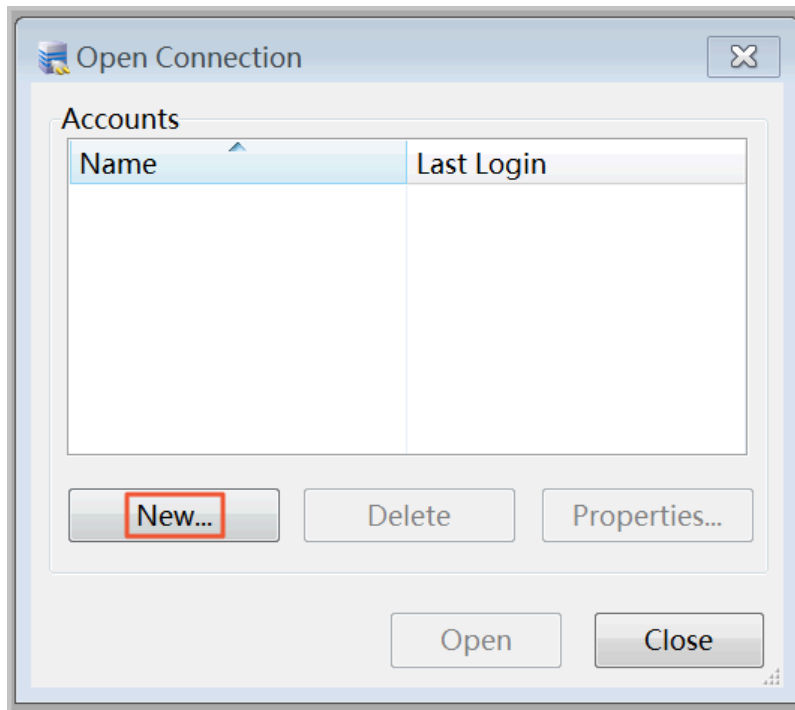
[インスタンスの作成](#)、[ホワイトリストの設定](#)、[アカウントの作成](#) が完了したら、データベースクライアントを使用して **RDS** インスタンスに接続できます。接続するアプリケーションで、**IP** アドレス、ポート、およびアカウント情報を設定することもできます。

クライアントを使用したインスタンスへの接続

ApsaraDB RDS for MySQL は **MySQL** と完全な互換性があります。 **MySQL** データベースへの接続と同じ方法で、オンプレミスデータベースサーバーから **RDS** インスタンスに接続できます。本ドキュメントでは、[MySQL-Front](#) を使用して **RDS** インスタンスに接続する方法を説明します。

1. **MySQL-Front** クライアントを起動します。

2. [接続を開く] ダイアログボックスで、[新規] をクリックします。



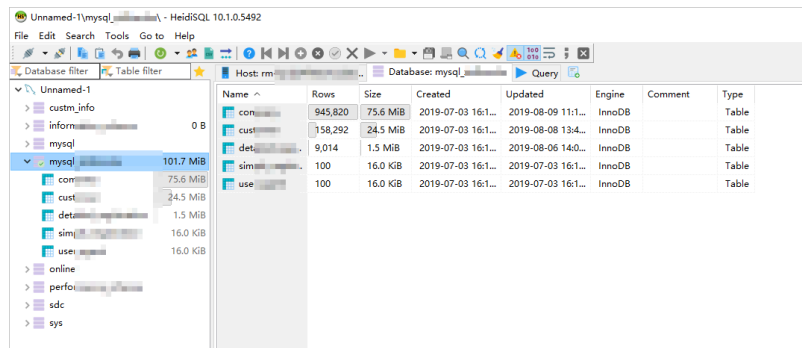
3. 接続する RDS インスタンスの情報を入力して [OK] をクリックします。

パラメータ	Description
Name	データベースに接続するためのタスク名。このパラメーターを指定しないと、名前は Host と同じに設定されます。

パラメータ	Description
Host	<p>RDS インスタンスの内部またはパブリックIPアドレスを入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> リージョンとネットワークタイプが、RDS インスタンスと同じ ECS インスタンスにクライアントがデプロイされている場合は、イントラネット IP アドレスを使用します。たとえば、ECS インスタンスと RDS インスタンスがどちらも中国 (杭州) 地域の VPC にある場合、提供された内部 IP アドレスを使用して、安全な接続を確立できます。 他の状況ではインターネット IP アドレスを使用します。 <p>RDS インスタンスの接続アドレスとポート情報を表示するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ApsaraDB for RDS コンソール にログインします。 ページの左上隅で、インスタンスが配置されているリージョンを選択します。 ターゲットインスタンスを探して、その ID をクリックします。 表示される [基本情報] ページで、次の図で示されるように、内部またはパブリック IP アドレスとそれに対応するポート番号を探します。 <div data-bbox="451 1137 1592 1451" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>Basic Information</p> <p>Instance ID: [redacted]</p> <p>Instance Region and Zone: China East 1 (Hangzhou)ZoneB</p> <p>Intranet Address [redacted]</p> <p>Internet Address [redacted]</p> </div>
ポート	内部接続の場合は、内部接続用のポート番号を入力してください。外部接続の場合は、外部接続用のポート番号を入力してください。
User	RDS インスタンスへのアクセスに使用されるアカウント名を入力してください。
Password	アカウントのパスワードを入力します。

4. 表示される [接続を開く] ダイアログボックスで、作成した接続を選択し、[開く] をクリックします。

接続情報が正しければ、**RDS** インスタンスに接続できます。



1.5 インスタンスのスケール

2 インスタンスパラメーター

2.1 RDS for MySQL インスタンスのパラメーター再設定

このトピックでは、コンソールまたは API を使用して、RDS for MySQL インスタンスのパラメーターを表示および再設定する方法について説明します。コンソールを使用して、パラメーターの再設定履歴を照会することもできます。

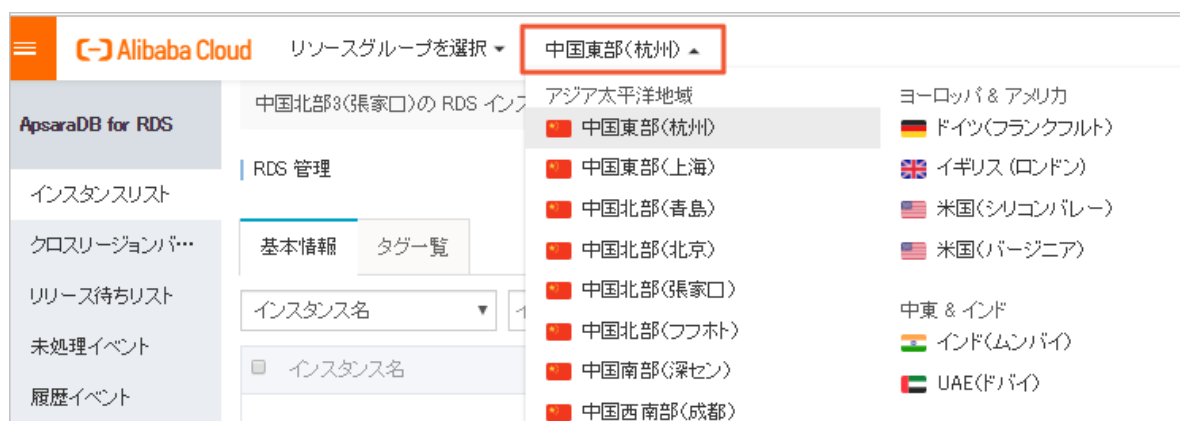
注意事項

- ・ [パラメーター] ページでパラメーターを再設定する場合は、各パラメーターに対応する 値の 範囲列を確認してください。
- ・ パラメーターの再設定後に変更を反映するには **RDS** インスタンスを再起動する必要があります。詳細については、[パラメーター] ページの 再起動列をご参照ください。再起動時には、RDS インスタンスとの接続が切断されます。そのため、事前にサービス間の調整を行っておくことを推奨します。作業は慎重に進める必要があります。

パラメーターの再設定

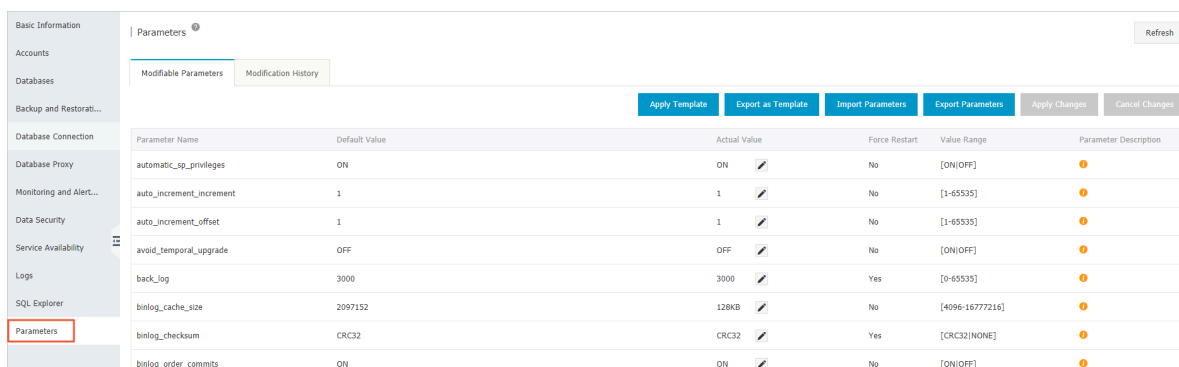
RDS インスタンスのパラメーターを一括で再設定する場合は、[パラメーターテンプレート](#)を使用します。

1. [RDS コンソール](#) にログインします。
2. リージョンを選択します。



3. 設定を変更する RDS インスタンスの ID をクリックします。

4. 左側のナビゲーションウィンドウで、[パラメーター] をクリックします。



Parameter Name	Default Value	Actual Value	Force Restart	Value Range	Parameter Description
automatic_sp_privileges	ON	ON	No	[ON OFF]	
auto_increment_increment	1	1	No	[1-65535]	
auto_increment_offset	1	1	No	[1-65535]	
avoid_temporal_upgrade	OFF	OFF	No	[ON OFF]	
back_log	3000	3000	Yes	[0-65535]	
binlog_cache_size	2097152	128KB	No	[4096-16777216]	
binlog_checksum	CRC32	CRC32	Yes	[CRC32 NONE]	
binlog_order_commits	ON	ON	No	[ON OFF]	

5. [変更可能なパラメーター] タブで、必要に応じてパラメーターを再設定します。

パラメーターテンプレートの設定を **RDS** インスタンスに反映するには、次の手順を実行します。



注：

パラメーターテンプレートの設定を反映するために再起動が必要な場合、オフピーク時に操作を実行し、アプリケーションが **RDS** インスタンスに自動的に再接続できることを確認することを推奨します。

a) [テンプレートの適用] をクリックします。

b) [テンプレートの適用] ダイアログボックスで、設定を反映するパラメーターテンプレートを選択し、[OK] をクリックします。



注：

- ・ テンプレート内のパラメーター数と、テンプレート反映後の再起動の要否を確認できません。パラメーター変更の詳細については、[パラメーター変更内容の表示] をクリックしてください。
- ・ テンプレートが検索できない場合、テンプレートが **RDS** インスタンスと同じリージョンにあるかどうかを確認してください。別のリージョンにある場合、**RDS** インスタ

インスタンスが配置されているリージョンにテンプレートを複製できます。詳細については、「[パラメーターテンプレートの操作](#)」をご参照ください。

Apply Template
✕

Template Name:

Number of Parameters: 3

Force Restart: Yes

Update Time: 2019-08-30 11:02:18

[View Parameter Change](#)

RDS インスタンスのパラメーター設定をパラメーターテンプレートとしてエクスポートするには、次の手順を実行します。

- a) [テンプレートとしてエクスポート] をクリックします。
- b) 以下のパラメーターを設定します。

パラメーター	説明
テンプレート名	パラメーターテンプレートの名前を設定します。テンプレート名は 8 文字から 64 文字 で、文字、数字、小数点(.)、および下線(_)を使用できますが、文字で開始する必要があります。

パラメーター	説明
説明	テンプレートを管理しやすくするための説明を入力します。説明は 200 文字まで入力できます。

Export as Template
✕

Template Name:

The template name must be 8 to 64 characters in length and can contain letters, digits, periods (.), and underscores (_). It must start with a letter.

Description:

The description must be 0 to 200 characters in length. It can be in any language.

c) [OK] をクリックします。

RDS インスタンスのパラメーターをエクスポートするには、次の手順を実行します。

[パラメーターのエクスポート] をクリックします。テキストファイルとしてパラメーターがエクスポートされます。ファイルの内容は、**RDS** インスタンスのすべてのパラメーターおよび設定値です。

RDS インスタンスのパラメーターをインポートするには、次の手順を実行します。

a) エクスポートされたパラメーターファイルの編集を完了後、[パラメーターのインポート] をクリックして、[パラメーターのインポート] ダイアログボックスでファイルの内容をコピーします。

b) [OK] をクリックします。

c) 画面右上の [変更の送信] をクリックします。











注：


- ・新しいパラメーター設定の反映に **RDS** インスタンスの再起動が必要な場合、**RDS** インスタンスの再起動について確認を求められます。再起動が必要な場合は、オフピー

ク時またはアプリケーションが **RDS** インスタンスに自動再接続できる状態である時に切り替えを実行することを推奨します。

- 新しいパラメーター設定が反映される前に **[変更のキャンセル]** をクリックすると、パラメーターの再設定が取り消されます。

Apply Template		Export as Template		Import Parameters		Export Parameters		Apply Changes		Cancel Changes	
Actual Value		Force Restart	Value Range	Parameter Description							
ON		No	[ON OFF]								
1		No	[1-65535]								
1		No	[1-65535]								
OFF		No	[ON OFF]								

RDS インスタンスで変更するパラメーターが **1** つだけの場合は、次の手順を実行します。

- [変更可能なパラメーター]** タブで再設定するパラメーターをクリックし、**[適用中のパラメーター値]** 列で  をクリックします。
- 表示されたダイアログボックスで、値を変更します。


ON

Input Range:[ON|OFF]

Confirm

Cancel

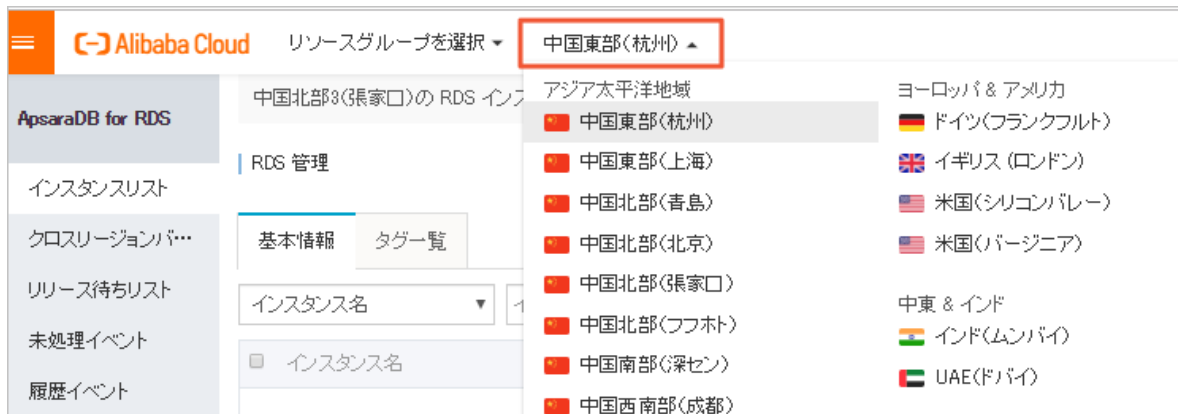
- [確認]** をクリックします。
- 画面右上の **[パラメーターを適用]** をクリックします。

 **注：**

- 新しいパラメーター設定の反映に **RDS** インスタンスの再起動が必要な場合、**RDS** インスタンスの再起動について確認を求められます。再起動が必要な場合は、オフピーク時またはアプリケーションが **RDS** インスタンスに自動再接続できる状態である時に切り替えを実行することを推奨します。
- 新しいパラメーター設定が反映される前に、**[変更の取り消し]** をクリックすると、パラメーターの再設定が取り消されます。

パラメーター変更履歴の表示

1. [RDS コンソール](#) にログインします。
2. リージョンを選択します。



3. 履歴を表示する **RDS** インスタンスの **ID** をクリックします。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[パラメーター]** をクリックします。
5. **[変更履歴]** タブをクリックします。
6. 期間を選択し、**[照会]** をクリックします。

Parameter Name	Original Value	New Value	Status	Modified At
query_cache_type	0	0	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:52:53
binlog_cache_size	2097152	2097152	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:52:53
avoid_temporal_upgrade	OFF	OFF	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:52:53
query_cache_type	0	0	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:32:13
binlog_cache_size	128KB	2097152	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:32:13
avoid_temporal_upgrade	OFF	OFF	Already in effect	Aug 30, 2019, 11:32:13

2.2 パラメーターテンプレートの操作

このトピックでは、パラメーターテンプレートを作成、管理、および使用方法について説明します。パラメーターテンプレートを使用して、**RDS for MySQL** インスタンスをまとめて管理できます。

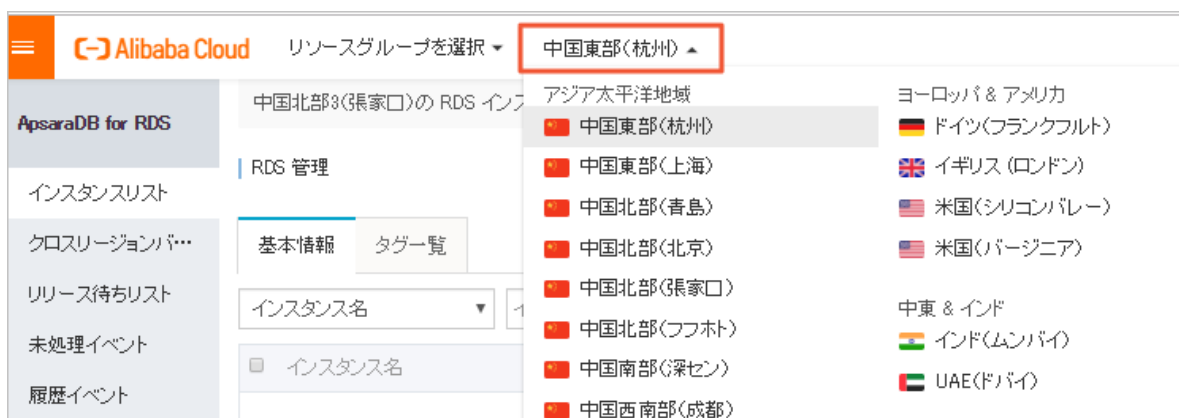
インスタンスのバージョンは次のいずれかのバージョンであることが前提です。

- **MySQL 8.0**
- **MySQL 5.7**
- **MySQL 5.6**

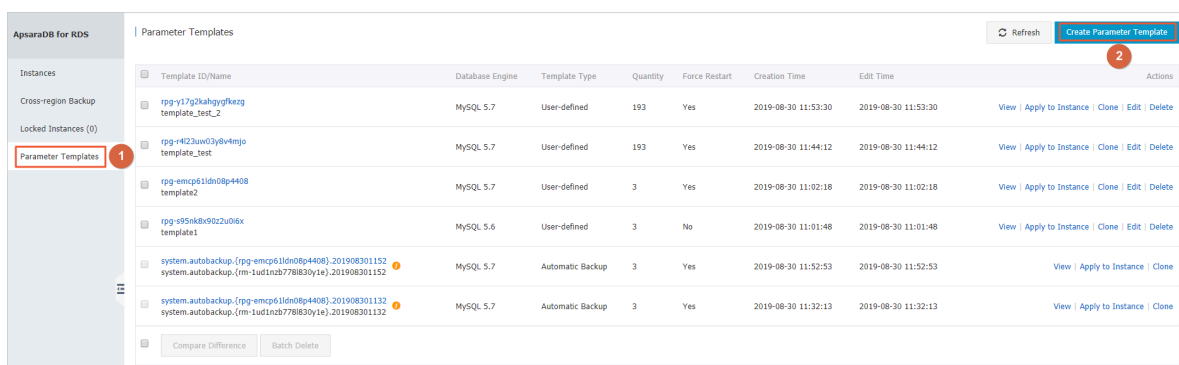
RDS インスタンスで変更するパラメーターが 1 つだけの場合は、「[RDS for MySQL インスタンスのパラメーター再設定](#)」をご参照ください。

パラメーターテンプレートの作成

1. [RDS コンソール](#)にログインします。
2. 画面左上で、パラメーターを変更するインスタンスのリージョンを選択します。


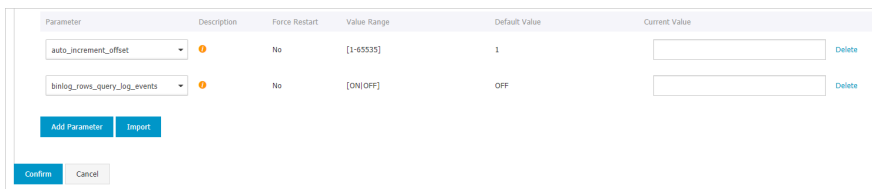


3. 左側のナビゲーションペインで [パラメーターテンプレート] をクリックし、画面右上の [パラメーターテンプレートの作成] をクリックします。



4. 以下のパラメーターを設定します。

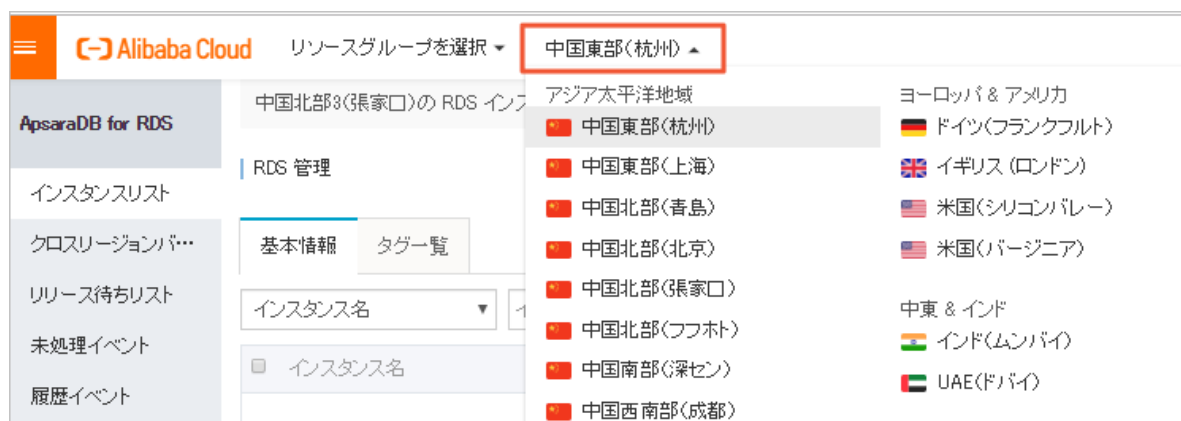
パラメーター	説明
テンプレート名	パラメーターテンプレートの名前を設定します。テンプレート名は 8 文字から 64 文字で、文字、数字、小数点 (.)、および下線 (_) を使用できますが、文字で開始する必要があります。
データベースエンジン	選択できる値は MySQL のみです。
Version	MySQL 5.6 または MySQL 5.7 を選択できます。
説明	テンプレートを管理しやすくするために、説明を入力します。説明は 200 文字まで入力できます。

パラメーター	説明
パラメーターの追加	<p>[パラメーターの追加] をクリックすると、パラメータ名と値を指定するための変更可能なパラメータエントリが表示されます。さらに、値の範囲やデフォルト値などの他の情報を表示できます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> 注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • さらにパラメーターを設定するには、[パラメーターの追加] をもう一度クリックします。 • パラメーターを削除するには、[削除] をクリックします。 </div> 
インポート	<p>エクスポートされたパラメーターテンプレートを変更した後、[インポート] をクリックして、このパラメーターテンプレートをペーストします。パラメーターテンプレートのエクスポートの詳細については、RDS for MySQL インスタンスのパラメーター再設定をご参照ください。</p>

5. [確認] をクリックします。

パラメーターテンプレートの管理

1. [RDS コンソール](#)にログインします。
2. 画面左上で、ターゲット **RDS** インスタンスが表示されているリージョンを選択します。



3. 左側のナビゲーションウィンドウで、[パラメーターテンプレート] をクリックします。

ApsaraDB for RDS		Parameter Templates							Refresh	Create Parameter Template
Instances	Template ID/Name	Database Engine	Template Type	Quantity	Force Restart	Creation Time	Edit Time	Actions		
Cross-region Backup	rpg-y17g2khhgygkca3g template_test_2	MySQL 5.7	User-defined	193	Yes	2019-08-30 11:53:30	2019-08-30 11:53:30	View Apply to Instance Clone Edit Delete		
Locked Instances (0)	rpg-4l23xw03y@4mjo template_test	MySQL 5.7	User-defined	193	Yes	2019-08-30 11:44:12	2019-08-30 11:44:12	View Apply to Instance Clone Edit Delete		
Parameter Templates	rpg-5mcp61ldh08p4408 template2	MySQL 5.7	User-defined	3	Yes	2019-08-30 11:02:18	2019-08-30 11:02:18	View Apply to Instance Clone Edit Delete		

4. 必要に応じて、パラメーターテンプレートの操作を実行します。

パラメーターテンプレートを表示するには、次の手順を実行します。

目的のパラメーターテンプレートの [操作] 列で、[表示] をクリックします。次に、テンプレートの基本情報とパラメーターの詳細を確認します。


Basic Information						
Template ID: rpg- XXXXXXXXXX	Template Name: template1					
Database Engine: MySQL	Version: 5.6					
Description:						
Parameters						
Parameter	Description	Force Restart	Value Range	Default Value	Current Value	
automatic_sp_privileges		No	[ON OFF]	ON	ON	
auto_increment_increment		No	[1-65535]	1	1	
binlog_rows_query_log_events		No	[ON OFF]	OFF	OFF	

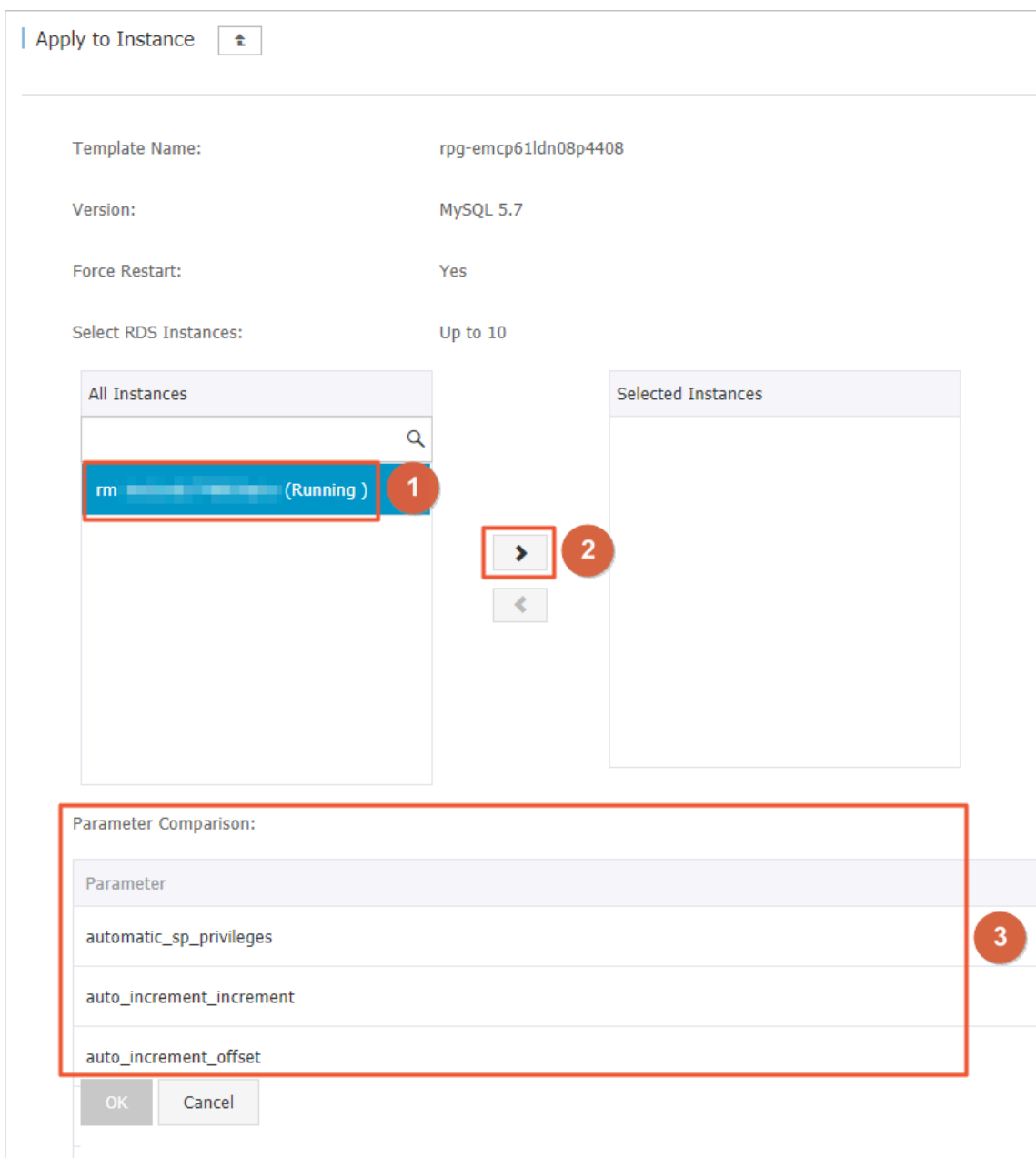
パラメーターテンプレートを **1** つ以上の **RDS** インスタンスに反映するには、次の手順を実行します。




注:

パラメーターテンプレートを複数の RDS インスタンスに反映する前に、パラメーターがインスタンスに適合していることを確認する必要があります。

- a) 目的のパラメーターテンプレートの[操作]列で、[インスタンスに適用]をクリックします。
- b) すべてのインスタンス セクションで RDS インスタンスを選択し、 をクリックして選択されたインスタンス セクションに移動します。次に、パラメーター比較情報を確認します。




Apply to Instance 

Template Name: rpg-emcp61ldn08p4408


Version: MySQL 5.7


Force Restart: Yes

Select RDS Instances: Up to 10

All Instances 

rm (Running) **1**

 **2**



Selected Instances

Parameter Comparison:

Parameter
automatic_sp_privileges
auto_increment_increment
auto_increment_offset

3

OK Cancel

- c) [OK] をクリックします。

別のリージョンにパラメーターテンプレートを複製するには、次の手順を実行します。

- a) 目的のパラメーターテンプレートの[操作]列で、[クローン]をクリックします。
- b) 次のパラメーターを設定します。

パラメーター	説明
リージョン	パラメーターテンプレートの複製先リージョンを設定します。
パラメーターテンプレート	パラメーターテンプレートの名前を設定します。テンプレート名は8文字から64文字で、文字、数字、小数点(.)、および下線(_)を使用できますが、文字で開始する必要があります。

パラメーター	説明
説明	テンプレートを管理しやすくするために、説明を入力します。説明は 200 文字まで入力できます。

Clone
✕

Version: MySQL 5.7

* Region: China (Hangzhou) ▼

Parameter Template: rpg-emcp61ldn08p4408

ID:

* Template Name: template|

The template name must be 8 to 64 characters in length and can contain letters, digits, periods (.), and underscores (_). It must start with a letter.

Number of: 3

Parameters:

Description:

The description must be 0 to 200 characters in length. It can be in any language.

OK
Cancel

c) [OK] をクリックします。

パラメーターテンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

a) 目的のパラメーターテンプレートの[操作]列で、[編集] をクリックします。表示されたページで、必要に応じてパラメーターテンプレートを変更します。

b) [編集] をクリックします。

パラメーターテンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

目的のパラメーターテンプレートの[操作]列で、[削除]をクリックします。表示されるダイアログボックスで、[OK]をクリックします。



注:

パラメーターテンプレートを削除しても、テンプレートが反映された **RDS** インスタンスには影響しません。

3 データベースバックアップ

3.1 リージョン間でデータをバックアップする

このドキュメントでは、RDS for MySQL のクロスリージョンバックアップ機能について説明します。この機能では、RDS インスタンスが配置されているリージョン以外の、指定された宛先リージョンにある OSS バケットに、ローカルバックアップファイルを自動的にレプリケートします。宛先リージョンのバックアップファイルは、RDS インスタンスの管理と復元に使用されます。



注：

- ・クロスリージョンバックアップ機能は、デフォルトバックアップ機能とは異なります。デフォルトバックアップ機能の詳細は、「[#unique_23](#)」をご参照ください。
- ・クロスリージョンバックアップファイルを使用して、宛先リージョン内の新しい RDS インスタンスにデータを復元できます。詳細は、「[リージョン間で RDS for MySQL インスタンスのデータを復元する](#)」をご参照ください。

クロスリージョンバックアップとデフォルトバックアップの違い

- ・クロスリージョンバックアップ機能は、デフォルトでは無効になっているため、手動で有効にする必要があります。デフォルトバックアップ機能はデフォルトで有効になっています。
- ・クロスリージョンバックアップ機能は、お使いの RDS インスタンスとは異なるリージョンにデータを格納します。デフォルトバックアップ機能は、インスタンスが配置されているリージョンにデータを格納します。
- ・クロスリージョンバックアップ機能は、ソースまたは宛先リージョン内の新しい RDS インスタンスにデータを復元します。デフォルトバックアップ機能は、お使いの RDS インスタンスが配置されているソースリージョンにデータを復元します。詳細は、「[#unique_25](#)」をご参照ください。
- ・クロスリージョンバックアップ機能は、RDS インスタンスから独立しています。RDS インスタンスをリリースした後でも、指定された保持期間に基づきインスタンスデータを保持します。デフォルトバックアップ機能は、RDS インスタンスをリリースしてから 7 日間だけインスタンスを保持します。

前提条件

RDS インスタンスのバージョンは、次のいずれかが必要です。

- ・ MySQL 5.7 High-availability Edition (ローカル SSD)
- ・ MySQL 5.6

課金

クロスリージョンバックアップ機能の料金には、次の 2 つが含まれます。

- ・ リモートストレージの料金: **0.021 JPY/GB/時間**。
- ・ トラフィック料金: 詳細については、「[データベースのバックアップ料金](#)」をご参照ください。



注:

ベータテスト段階では、トラフィック料金のみが課金されます。

注意事項

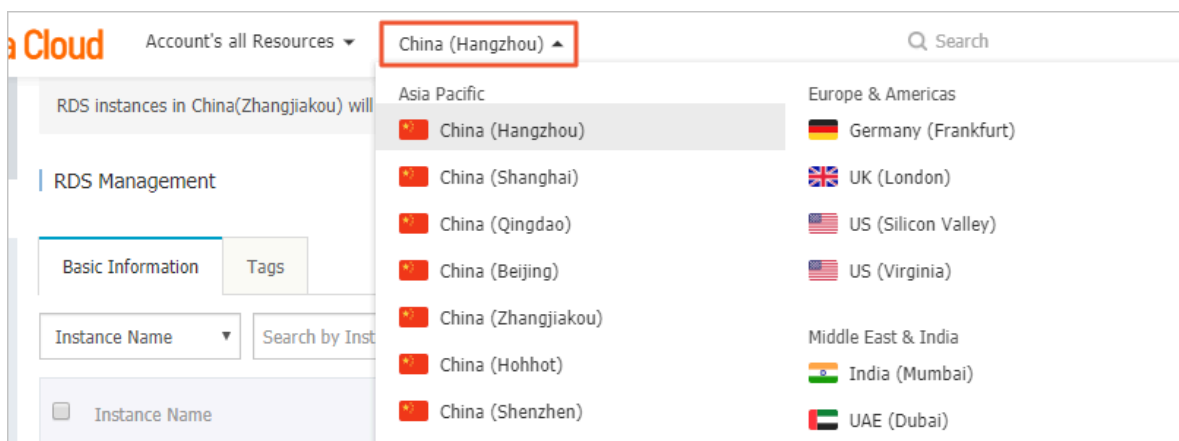
- ・ クロスリージョンバックアップ機能は、ソースまたは宛先リージョン内の新しい **RDS** インスタンスにデータを復元します。
- ・ クロスリージョンバックアップ機能は、新しい **RDS** インスタンスのみにデータを復元でき、元の **RDS** インスタンスには復元できません。
- ・ クロスリージョンバックアップ機能は、デフォルトバックアップ機能には影響しません。つまり、クロスリージョンバックアップファイルとデフォルトバックアップファイルは共存可能です。
- ・ クロスリージョンバックアップ機能を有効にすると、過去 **24** 時間以内に有効なバックアップセットが生成されない場合にバックアップがトリガーされます。
- ・ クロスリージョンログバックアップ機能を有効にすると、過去 **24** 時間以内に生成された有効なバックアップセットが使用可能かどうかチェックします。
 - 有効なバックアップセットの後に連続バイナリログが生成されると、システムはこれらのバイナリログをダンプします。
 - 有効なバックアップセットの後に連続バイナリログが生成されない場合、システムはバックアップを開始します。
- ・ ネットワーク上の問題で、クロスリージョンバックアップ機能は一部のリージョンでは使用できません。次の表に、各ソースリージョンで使用できる宛先リージョンを示します。

ソースリージョン	利用可能な宛先リージョン
中国 (杭州)	中国 (上海)、中国 (青島)、中国 (深セン)
中国 (上海)	中国 (杭州)、中国 (青島)、中国 (深セン)
中国 (青島)	中国 (杭州)、中国 (上海)、中国 (深セン)

ソースリージョン	利用可能な宛先リージョン
中国 (北京)	中国 (杭州)、中国 (上海)、中国 (青島)、中国 (深セン)
中国 (深セン)	中国 (杭州)、中国 (上海)、中国 (青島)
中国(香港)	中国 (杭州)、中国 (上海)、中国 (青島)、中国 (深セン)


方法 1：クロスリージョンバックアップを有効にする

1. [RDS コンソール](#)にログインします。
2. 左上隅で、該当の **RDS** インスタンスが配置されているリージョンを選択します。



3. 該当の **RDS** インスタンスを見つけ、[操作] 列で、[詳細] > [クロスリージョンバックアップ設定] を選択します。
4. 次のパラメーターを設定します。

パラメーター	説明
クロスリージョンバックアップステータス	クロスリージョンバックアップ機能のステータス。[有効] を選択します。
バックアップリージョン	バックアップファイルが格納されているリージョン。ローカルバックアップファイルは、リージョン内の OSS バケットに自動的にレプリケートされます。

パラメーター	説明
バックアップの保持日数	<p>クロスリージョンバックアップファイルが保持される期間。保持期間は7日から1,825日までで、最長で5年間です。</p> <p> 注: システムは、RDS インスタンスの有効期限が切れたとき、またはRDS インスタンスをリリースした後でも、指定された保持期間内でクロスリージョンバックアップファイルを保持します。RDS コンソールにログインし、[クロスリージョンバックアップ] ページに移動して、有効期限が切れていないクロスリージョンバックアップファイルを表示します。詳細は、「リージョン間でデータをバックアップする」をご参照ください。</p>
クロスリージョンログバックアップステータス	<p>クロスリージョンログバックアップ機能のステータス。この機能を有効にすると、システムはローカルログバックアップファイルを、指定された宛先リージョンのOSS バケットに自動的にレプリケートします。</p>

Cross-region Backup Settings ✕

If cross-region backup is enabled, backup files are automatically stored to an OSS bucket in the specified region.

Cross-region Backup Status: Enable Disable

Backup Region: China (Qingdao) ▼

Cross-region Retention Period: 7 Days

Cross-region Log Backup Status: Enable Disable

Note: Cross-region backup will incur additional fees. [Learn more.](#)

OK
Cancel

5. [OK] をクリックします。

方法2：クロスリージョンバックアップを有効にする

1. [\[RDS コンソール\]](#) にログインします。
2. 左上隅で、該当の RDS インスタンスが配置されているリージョンを選択します。

3. 該当の **RDS** インスタンスを見つけ、**ID** をクリックします。
4. 左側のナビゲーションウィンドウで、[バックアップと復元] をクリックします。
5. [クロスリージョンバックアップ] タブで、[編集] をクリックします。



注:

[クロスリージョンバックアップ] タブが表示されない場合は、[前提条件](#)セクションで指定されたすべての条件を満たしているかどうか確認してください。

6. 次のパラメーターを設定します。

パラメーター	説明
クロスリージョン ログバックアップス テータス	クロスリージョンバックアップ機能のステータス。[有効] を選択します。
バックアップリー ジョン	バックアップファイルが格納されているリージョン。ローカルバックアップファイルは、リージョン内の OSS バケットに自動的にレプリケートされます。
バックアップの保持 日数	クロスリージョンバックアップ ファイルが保持される期間。保持期間は 7 日から 1,825 日までで、最長で 5 年間です。 <div data-bbox="571 1099 638 1169" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="651 1131 707 1164" data-label="Text"> <p>注:</p> </div> <div data-bbox="564 1171 1425 1458" data-label="Text"> <p>システムは、RDS インスタンスの有効期限が切れたとき、または RDS インスタンスをリリースした後でも、指定された保持期間内にクロスリージョンバックアップファイルを保持します。RDS コンソールにログインし、領域間バックアップページを使用して、有効期限が切れていないクロスリージョンバックアップファイルを表示します。詳細は、「リージョン間でデータをバックアップする」をご参照ください。</p> </div>

パラメーター	説明
クロスリージョン ログバックアップス テータス	クロスリージョンログバックアップ機能のステータス。この機能を有効にすると、システムは、指定された宛先リージョンの OSS バケットに、ローカルログバックアップファイルを自動的にレプリケートします。

Cross-region Backup Settings
✕

If cross-region backup is enabled, backup files are automatically stored to an OSS bucket in the specified region.

Cross-region Backup Status: Enable Disable

Backup Region:

Cross-region Retention Period: Days

Cross-region Log Backup Status: Enable Disable

Note: Cross-region backup will incur additional fees. [Learn more.](#)

7. **[OK]** をクリックします。

クロスリージョンバックアップ設定の変更

[クロスリージョンバックアップ] というメニュー項目が、**RDS** ホームページの左側のナビゲーションウィンドウに追加されます。このメニュー項目を使用すると、**RDS** インスタンスがリリースされた後でも、クロスリージョンバックアップ設定を変更できます。

1. **RDS コンソール** にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、[クロスリージョンバックアップ] をクリックします。
3. 該当の **RDS** インスタンスを見つけ、[クロスリージョンバックアップ設定] 列の [編集] をクリックします。次に、クロスリージョンバックアップ設定を変更し、**[OK]** をクリックします。



注:

RDS インスタンスがリリースされている場合、再設定できるのは [バックアップの保持日数] パラメーターのみです。

4 復元

4.1 リージョン間で RDS for MySQL インスタンスのデータを復元する

このドキュメントでは、リージョン間で **RDS for MySQL** インスタンスのデータを復元する方法について説明します。具体的には、ソースまたは宛先リージョン内の新しい **RDS** インスタンスにデータを復元できます。

前提条件

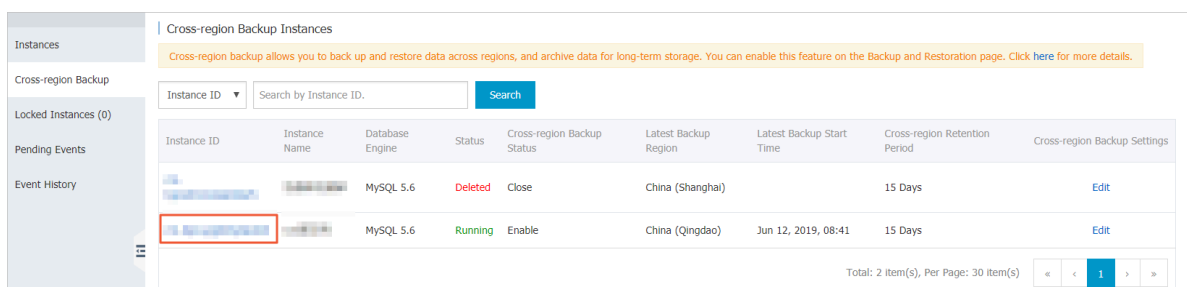
クロスリージョンバックアップを完了していること。詳細は、「[リージョン間でデータをバックアップする](#)」をご参照ください。

注意事項

- 元の **RDS** インスタンスがデータベースプロキシを有効にしている、スーパーユーザーアカウントがない場合は、データが復元される新しい **RDS** インスタンスに接続するためにパスワードをリセットする必要があります。
- クロスリージョンバックアップファイルを使用して、元の **RDS** インスタンスにデータを復元することはできません。

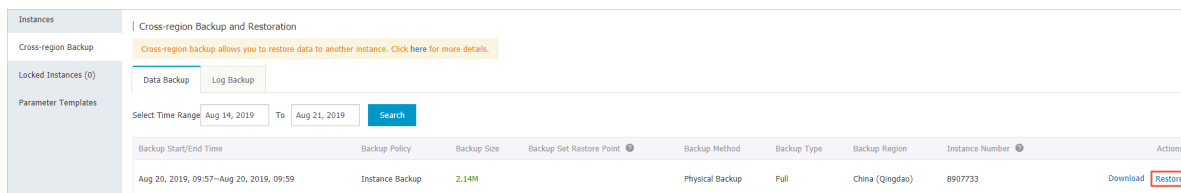
手順

- [RDS コンソール](#) にログインします。
- 左側のナビゲーションウィンドウで、[クロスリージョンバックアップ] をクリックします。
- 該当の **RDS** インスタンスを見つけ、**ID** をクリックします。




Instance ID	Instance Name	Database Engine	Status	Cross-region Backup Status	Latest Backup Region	Latest Backup Start Time	Cross-region Retention Period	Cross-region Backup Settings
[Redacted]	[Redacted]	MySQL 5.6	Deleted	Close	China (Shanghai)		15 Days	Edit
[Redacted]	[Redacted]	MySQL 5.6	Running	Enable	China (Qingdao)	Jun 12, 2019, 08:41	15 Days	Edit

4. [データバックアップ] タブで、該当のバックアップセットを見つけ、[操作] 列で、[復元] をクリックします。



5. [データベースの復元] ページで、[サブスクリプション] または [従量課金] タブを選択し、以下のパラメーターを設定します。

パラメーター	説明
復元タイプ	<ul style="list-style-type: none"> バックアップセットで: 選択したバックアップセット内のデータを、新しい RDS インスタンスに復元できます。 時刻で: ログバックアップ保持期間内の任意の時点を選択して、この時点からのデータを新しい RDS インスタンスに復元できます。
バックアップセット	復元タイプパラメーターが [バックアップセットで] に設定されている場合、データの復元にバックアップセットを選択する必要があります。
復元時刻	<p>復元タイプパラメーターが [時刻で] に設定されている場合、データを復元する時点を選択する必要があります。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> <p> 注: ローカルログバックアップセットとクロスリージョンログバックアップセットの両方とも、時刻ベースのデータ復元に使用できます。</p> </div>
リージョン	新しい RDS インスタンスが配置されているリージョンの ID 。クロスリージョンバックアップファイルを使用して、ソースまたは宛先リージョン内の新しい RDS インスタンスのみにデータを復元できます。
ゾーン	リージョン内の独立した物理領域。同じリージョン内の異なるゾーンは基本的に同じです。新しい RDS インスタンスは、同じリージョンまたは ECS インスタンスとは異なるリージョンに配置できます。
CPU とメモリ	新しい RDS インスタンスのタイプ (CPU およびメモリ仕様を含む)。各インスタンスタイプでは、固有の CPU コア数、メモリサイズ、最大接続数、最大 IOPS に対応しています。詳細は、「 #unique_27 」をご参照ください。
容量	データ、システムファイル、バイナリログファイル、およびトランザクションファイルの格納に使用します。

パラメーター	説明
ネットワークタイプ	<ul style="list-style-type: none">・ クラシックネットワーク:クラシックネットワーク。・ VPC(推奨): VPC は、クラシックネットワークよりも優れたセキュリティとパフォーマンスを提供する分離ネットワーク環境です。VPCを選択した場合、VSwitch も選択する必要があります。

6. オプション。新しい RDS インスタンスでサブスクリプション課金方法を使用する場合は、[期間] と [数量] パラメーターを設定します。
7. [今すぐ購入] をクリックします。
8. [注文の確認] ページで、[利用規約] を選択し、[今すぐ支払い] をクリックして、支払いを完了します。

次の手順

RDS コンソールの左上隅で、新しい RDS インスタンスが配置されているリージョンを選択し、新しい RDS インスタンスを表示できます。

RDS インスタンスを作成した後、[ホワイトリストの設定](#) と [アカウントの作成](#) が必要です。インターネットを使用して新しい RDS インスタンスに接続する場合は、[パブリック IP アドレスの申請](#) も必要です。その後、[新しい RDS インスタンスに接続](#) できます。

5 読み取り専用インスタンス

5.1 読み取り専用インスタンスの作成

データベースに送信された大量の読み取り要求を処理してアプリケーションのスループットを向上させるために、読み取り専用インスタンスを作成できます。読み取り専用インスタンスは、マスターインスタンスの読み取り専用のコピーです。マスターインスタンスへの変更も、MySQL のネイティブレプリケーション機能を介して、関連するすべての読み取り専用インスタンスに自動的に同期されます。

注意

- ・ 現在、以下のインスタンスが読み取り専用インスタンスをサポートしています。
 - MySQL 5.7 High-Availability Edition (ローカル SSD に基づく)
 - MySQL 5.6
 - SQL Server 2017
- ・ 読み取り専用インスタンス数

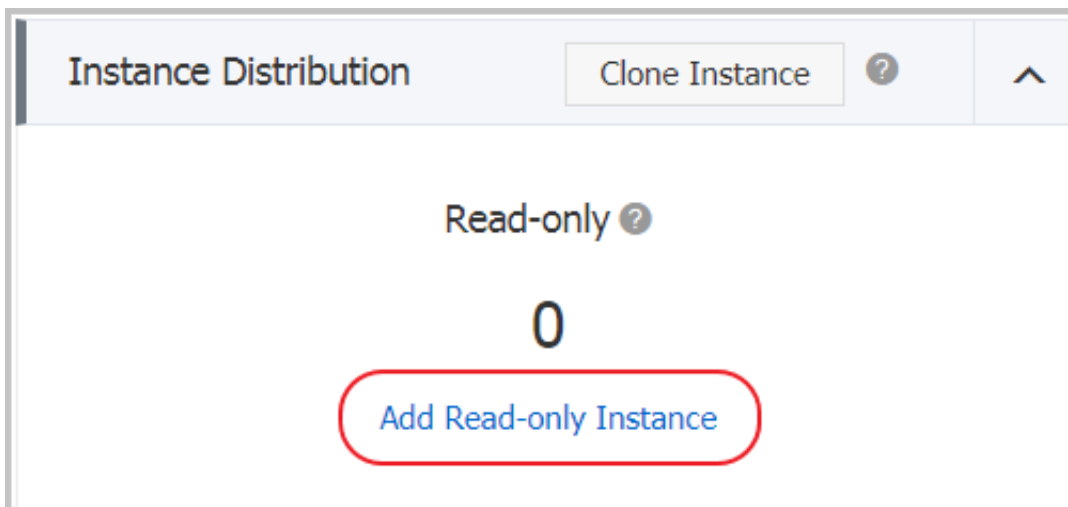
データベースの種類	メモリ	読み取り専用インスタンスの最大数
MySQL	≥ 64 GB	10
	< 64 GB	5
SQL サーバー	上限なし	7

- ・ 読み取り専用インスタンスの請求方法は、従量課金制です。読み取り専用インスタンスの詳細については、「[料金](#)」[「](#)」をご覧ください。
- ・ 読み取り専用インスタンスは自動的にホワイトリストのマスターインスタンスをコピーしますが、読み取り専用インスタンスのホワイトリストとマスターインスタンスのホワイトリストは互いに独立しています。読み取り専用インスタンスのホワイトリストを変更するには、「[ホワイトリストの設定](#)」をご参照ください。

手順

1. Log on to the [RDSコンソール](#)にログインします。
2. 対象インスタンスのリージョンを選択します。
3. インスタンスの ID をクリックして、基本情報 ページに移動します。

- 次の図に示すように、インスタンスの配布エリアで、[読み取り専用インスタンスを追加] をクリックします。





- 購入ページで、読み取り専用インスタンスの設定を選び、[今すぐ購入] をクリックします。



注:

- 読み取り専用インスタンスとマスターインスタンスは同じ VPC 内あることを推奨します。
- データ同期に十分な I/O を保証するために、読み取り専用インスタンス (メモリ) の構成はマスターインスタンスよりも小さくしないことを推奨します。
- 可用性を向上させるために、複数の読み取り専用インスタンスを購入することを推奨します。

- [サービス利用規約とサービスレベル契約に同意する] を選択し、[今すぐ購入] をクリックします。
- 読み取り専用インスタンスを作成した後は、次の図に示すように、インスタンスページでそのインスタンスを表示できます。

<input type="checkbox"/>	Instance Name	Status(All) ▼	Creation Time	Instance Type(All) ▼
<input type="checkbox"/>		Running	2017-07-26 16:24	Read-only
<input type="checkbox"/>		Running	2017-07-18 15:03	Regular